

令和3年度(2021年度)セタシジミ資源概況調査

井戸本純一

1. 目的

近年、セタシジミの漁獲量は100トンを下回っており、セタシジミ資源の現状とその動向を把握し、適正な資源管理や効果的な栽培漁業推進を行う必要がある。その基礎資料を得るため、産卵期にあたる5～7月の禁漁期間中に実際の漁具を用いて調査を行っている。

2. 方法

2021年5月30日および31日に琵琶湖北湖一円の主要7漁場を含む16漁場において、実際のシジミ漁業で用いられる漁船および貝桁網（開口幅170cm、網目3cm）を用いて調査した。曳網時間は船頭の任意とし、各漁場内で3回繰り返してそれぞれ採捕したセタシジミの個体数、重量、殻長を記録した。曳網面積の確度を高めるため、漁具にボイスレコーダーを取り付け、振動の変化を解析ソフトで視覚的に判別して接地時間を特定し、その間のGPSの軌跡から曳網距離を割り出した。

3. 結果

曳網面積1㎡あたりの入網個数（資源密度）は、全漁場の平均では前年の0.32個体/㎡から0.18個体/㎡と減少した（右表）。地域別平均では、東岸で前年の0.36個体/㎡から0.19個体/㎡に、西岸で0.24個体/㎡から0.18個体/㎡にそれぞれ減少し、主要漁場を含む東岸漁場で減少幅が大きかった。

主要7漁場では沖島西を除いて資源密度が著しく低下し、平均では前年の0.46個体/㎡から0.22個体/㎡に半減した（図1）。サイズ別にみると、漁獲対象である殻長18mm以上の密度は平均0.13個体/㎡で変わらなかったに対し、殻長18mm未満は0.33個体/㎡から0.09個体/㎡に激減した（図2）。

表 2021年禁漁期における琵琶湖北湖一円の漁場別資源密度

漁場	曳網回数	平均曳網面積(m ²)	平均資源密度(個/m ²)	標準偏差
東岸				
今西※	3	117	0.12	0.10
長浜※	3	265	0.06	0.02
磯※	3	189	0.22	0.10
松原※	3	173	0.12	0.05
石寺	3	217	0.05	0.01
新海	3	135	0.11	0.03
沖島東※	3	133	0.13	0.06
沖島西※	3	171	0.73	0.32
沖島南西※	3	291	0.13	0.02
牧	3	273	0.12	0.02
菖蒲	3	190	0.25	0.03
西岸				
海津	3	80	0.21	0.16
針江	3	144	0.07	0.04
鴨川	3	134	0.16	0.05
高島	3	86	0.33	0.03
近江舞子	3	236	0.14	0.03
平均				
全体			0.18	
主要漁場※			0.22	

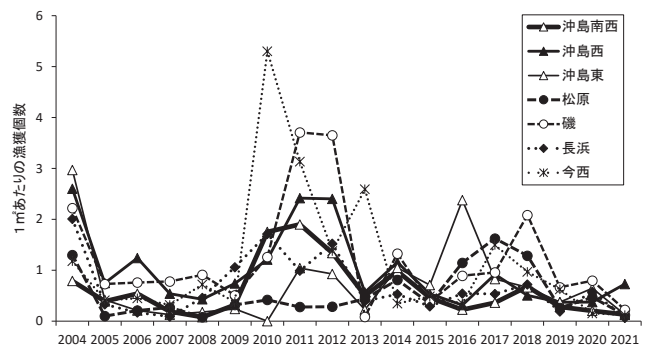


図1 各主要漁場における資源密度の推移

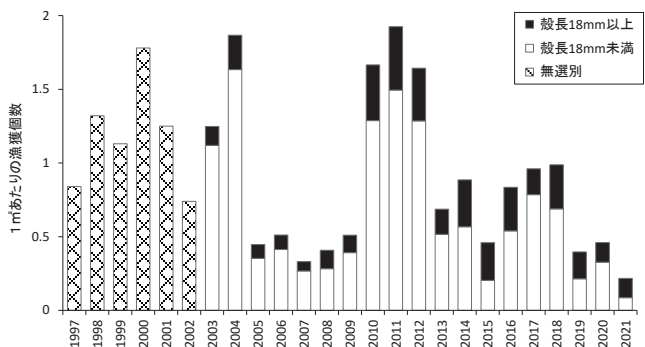


図2 主要7漁場における平均資源密度とサイズ別内訳の推移

本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。